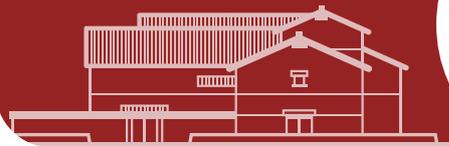


足立区立 郷土博物館 だより

2024
No.78



『國華』―最高峰の美術雑誌―

令和五年五月、歴史ある美術雑誌『國華』の第一五三一号に、「千住・足立の文化遺産」と題した特集が組まれました。本件については、『あだち広報』や区立中央図書館の特設コーナーなどでもお知らせしましたので、ご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、改めて、この『國華』と、同号の特集についてご紹介いたします。

『國華』は、日本美術の保存と普及を目的に、明治時代の美術指導者、岡倉天心（一八六二―一九一三）と、その盟友で官報局長も務めた高橋建三（一八五五―九八）が中心となり、明治二十二年（一八八九）に創刊された

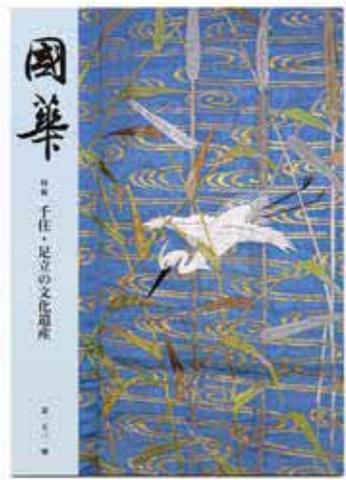
特集

美術雑誌『國華』で組まれた

「特輯 千住・足立の文化遺産」

美術雑誌です。本年度一三五年の歴史を数え、刊行が継続している美術雑誌としては世界最古となります。

美術研究の専門雑誌として高い格式を誇り、取り上げる作品は厳選を重ねた上で、各分野の美術研究者による解説論文が挿入されるほか、様々な研究論文も掲載されます。今日では日本で最も権威ある美術雑誌として知られ、そこに掲載される作品と論文は見逃すべからざるものとして、国内の大学・美術館や東洋美術を扱う海外の美術館で必読誌として購読されています。



『國華』第1531号 表紙

『國華』のご購入については
書店にお問い合わせください。

特輯 千住・足立の文化遺産

『國華』第一五三一号は、一冊全てが千住・足立の文化遺産特集として構成されています。この特集は、平成二十三年より当区が実施している「文化遺産調査」と、文化遺産調査にご協力を頂いている琳派研究の第一人者、玉蟲敏子氏（武蔵野美術大学）をはじめとする研究者の方々と重ねてきた調査の成果が注目されて生まれた

ものです。作品の解説には、文化遺産調査に携わった研究者と、当館学芸員が筆を執っています。

『國華』ではこれまで、特定の作家やジャンル、著名なコレクションや神社の宝物など、様々な特集が組まれてきましたが、絵画・工芸を中心とする内容で、今回のように市区町村単位でその地域の伝来作品や文化を取り上げた例はありませんでした。本特集に掲載される千住・足立の文化遺産の数々は、酒井抱一・谷文晁といった江戸時代後期の文人たちとの密接な交流を土台として、日常生活の中で美術文芸を楽しんできた地域の豊かな姿を示すものであり、本特集はそのような足立の文化遺産と、調査から導き出される美術史的な意義が評価されることと言えます。

近年、特定の地域における美術文化を検証する「地域美術史」という概念が美術研究の分野で注目されています。今回の『國華』「特輯 千住・足立の文化遺産」は、地域にとつて大きな誇りとなっただけでなく、地域美術史の持つ重要性を発信できたという点で、美術研究に貴重な足跡を残したと言えます。

〈國華〉第一五三二号目次

- 「千住・足立の文化遺産」特輯に当って：國華編輯委員会
- 概論「千住・足立の名家と文化遺産」：玉蟲敏子・多田文夫・萩原ちとせ（当館学芸員）

- 酒井抱一「下絵原筆遊齋詩絵」筑波山に都鳥墨切時絵大盃：玉蟲敏子
- 鈴木其一「画東耕舎米貝・閨屋里元寶」小菅局・源仲國図：玉蟲敏子
- 村越其榮筆「秋草園屏風」：江村知子（東京文化財研究所）
- 村越尚榮筆「月次景物図」：小林優（当館学芸員）
- 一世谷文一「遠坂文雅」文雅写真・文一写真：鶴岡明美（昭和女子大学）
- 木造釈迦如来立像：眞田尊光（川村学園女子大学）

研究資料

- 船津家伝来資料にみる足立の谷派絵師「船津文淵の展開」：加藤ゆずか（当館専門員）
- 狩野派の粉本資料群としての石出家伝来資料：小林優（重要史料解説）
- 「町や村に伝わった美術の古文書記録」：多田文夫

頼もしい博物館協議会

郷土博物館には、外部委員5名、区の管理職1名で構成される「足立区立郷土博物館協議会」が設置されています。

博物館と情報共有や意見交換を行いながら、博物館の調査研究、収集、保存、教育普及（展示）などの活動について委員の先生方にご審議いただき、その結果を博物館の運営に反映しています。会議室での対面開催のほかオンラインでも実施しています。

外部委員の皆様は博物館、美術館での業務経験も豊富な専門家で、博物館に求められる役割や課題について、広い視野と経験からご提言いただいています。

今回はこれまでの審議事項から、いくつかの事例とともに、外部委員の皆様のプロフィールをご紹介します。

審議の中から

■出張博物館 横山家住宅

改修工事で休館中の現在、博物館以外の場所出張展示を開催しています。代表例が伊興本町の東岳寺（歌川広重の墓所がある）での「一日だけの広重展」（9月6日）や、千住の江戸時代の建物で区の登録文化財となっている横山家住宅での「出張博物館 横山家住宅」（11月17日～18日）です。このうち横山家住宅の展覧会では、館蔵古文書や美術品などを建物とともにご覧いただきました。

委員からは、美術品保護のための二日間という期間や、普段から掛軸や屏風が飾られていた場所（帳場）

に伝来品を展示したことに「江戸時代の展覧会を連想させ、空間を楽しめる」「文化財の建物の中での展示で知恵と工夫がみられる」との評価をいただくとともに、足立の美術品の特徴である「生活の中の美術」という切り口を「今後

も意識すると良い結果につながる」とのご指導もあり、今後の一つの方向性と考えます。



横山家の帳場に展示した美術品を見学する参加者

■『ビビビ美アダチ』発行へ

次に、当館で企画しているマンガ本『ビビビ美アダチ』の出版についての審議がありました。『ビビビ美アダチ』は、2021年4月から2022年12月まで、足立区公式X（旧ツイッター）に掲載した4コマ漫画に加筆・再編集し発行するものです。この本には現在の学芸員がモデルとなったキャラクターが登場するため、委員の先生方から「現在の学芸員がモデルとなっているのでキャラが立ち、類例と差別化できるだろう」とのご意見に加え、「来館者がキャラクターに

出会うことが動機づけとなり、足立の文化遺産の普及につながるのでは」とのお声もあり、展覧会開催の際に『ビビビ美アダチ』の内容やキャラクターをうまく登場させるなど、博物館事業との連携を模索する意見交換が行われました。



ガイド役の学芸員キャラ コバヤシ

■博物館防災の検討

もう一つ重要な審議事項がありました。博物館資料の防災対策です。足立区は東京の平野部、低地帯にあります。ハザードマップや当館にも設置している浸水深表示板等では水害時に博物館も最大で1階部分が水没すると想定されています。

最近の協議会では、東日本大震災や大雨に伴う博物館収蔵庫の被災に関する情報を交換して、新たに館の防災について調査検討をすすめていくことになりました。審議の中で「博物館だけでなく町にある文化財も視野に入れるべき」との指摘もあり、先人の遺産をどのように守っていくかについて、早期に一定の方向性を打ち出していきます。

外部委員五名の先生方

会長 玉蟲敏子先生

武蔵野美術大学の教授で琳派研究の第一人者です。国や都県の文化財委員も務められ、当館の文化遺産調査をリードし「千住の琳派」の名付け親でもあります。『國華』第一五三二号の発刊にも御尽力いただきました。

会長職務代理者(副会長) 山梨絵美子先生

日本博物館協会の会長であり千葉市美術館の館長です。近代美術史が専門で、国の東京文化財研究所の元副所長であり国内外の文化財に広い視野をお持ちです。

委員 眞田尊光先生

日本の仏教美術と歴史を専門とされています。文化財の保護や活用についても経験が豊富な方です。過去には当館の専門員も務められ、仏像調査や千住の琳派の発見者だったことから、ご記憶の方もいらっしゃると思います。現在、川村学園女子大学の教授としても活躍されています。

委員 川越仁恵先生

伝統工芸史とデザインとの複合新領域をひらかれ、二〇一三年に新伝統工芸プロデュース事業のプロデューサーとしてグッドデザイン賞を受賞されています。川越先生も当館の専門員だった経歴をお持ちで、二〇一五年に開催された千住酒合戦二五〇年記念「デザインアイデア合戦」で審査員をつとめていただきました。現在、文京学院大学の准教授として、新しい工芸とデザインの研究に取り組まれています。

委員 三村昌司先生

日本近代史と地域歴史資料学を専門とされており、各地の博物館を含む自治体の資料保存について調査研究を進められています。千住曙町の東京未来大学で教鞭をとられていた時代には、足立区の古文書記録にも精通され、現在は防衛大学の准教授として幹部自衛官候補生の教育に従事されています。

協議会外部委員の皆様は、美術館・博物館や自治体での資料調査の経験や、著名な研究・展示の実績をお持ちです。協議会では文化遺産調査の対象となっている美術資料の熟覧会を行うこともあり、多角的な評価や活用のヒントをいただいています。

調査の大方針から、一つ一つの資料の詳細についてまで情報交換ができる、博物館の心強い相談相手と言えます。



協議会委員と事務局 リモート会議の様子



協議会の熟覧会

「祭りのまちあだち」動画制作 足立の郷土芸能

足立区郷土芸能保存会には、祭り囃子や、獅子舞、太鼓などを伝承しつつ、地元のお祭りやイベントで活躍する33の団体が所属しています（2024年3月現在）。

今回、足立区では、足立区郷土芸能保存会の活動を後押しするために、動画の制作を行いました。10月に行われた郷土芸能大会での演奏や、島根神社の二の酉に奉納される神代神楽の取材や撮影を行いました。区内の郷土芸能は、その土地の神社に奉納する形で披露され、祭礼には欠かせないものです。祭礼は地域の人々が協力して行い、豊作や幸せを祈り、楽しみを分かちあうものです。郷土芸能の伝承を通じて、多くの方が郷土愛を持ち、人々のつながりを大切にしていることがわかります。



大舞台に緊張 練習の成果は出せたかな？

動画では郷土芸能大会への出演前に緊張する子どもたちの様子や、練習風景、修練を積んでこれからも活躍を期待される子どもが表彰される青少年奨励賞受賞

者へのインタビューをまとめました。

完成した映像は足立区公式チャンネル「動画あだち」にて、2024年3月25日より配信します。詳しくは、地域文化課文化団体支援係にお問い合わせください。
(TEL 03-3880-5986)



島根神代神楽 天孫降臨
神楽囃子に合わせて、舞方が神役を舞う。



神前には、稲穂、お神酒など氏子からのたくさんのお供えが供えられ、つややかな灯りと境内に響くお囃子の音が、大祭を彩っている。

『ビビビ美アダチ』刊行！

2021年4月より、足立区公式X(旧ツイッター)で不定期連載していた漫画『ビビビ美アダチ』が、一冊の本にまとまりました。全27作の他、お楽しみの描下ろし漫画も掲載。漫画には関連する作品画像を載せたわかりやすい解説をつけて、「もっと詳しく知りたい」という方の期待にこたえています。

数々の美術資料の発見に結びついた文化遺産調査の歩みや、文人・画家の相関図、居住マップなどをプラスして内容も一層充実しました。とくに、描き下ろし漫画では、かわいいう新キャラと重鎮キャラが登場し、ナビゲーターコバヤシもタジタジ。足立区の美術文化をぐいぐい深掘りしていく必見の一冊です。

区立図書館、区の施設、小学校、中学校へ配布のほか、区政資料室(足立区役所2階)でも販売いたします。*郷土博物館での販売は、大規模改修終了後の令和7年春以降となります。A5版、充実の128頁、販売価格900円



足立区立郷土博物館だより 78号
令和6(2024)年3月発行



〒120-0034 東京都足立区千住5-13-5 学びピア21 5階
※令和7年度リニューアルオープンまで大規模改修工事に伴い、事務室が移転しています。

〒120-0001 東京都足立区大谷田5-20-1
☎ 03-3620-9393 / e-mail hakubutsukan@city.adachi.tokyo.jp
URL <https://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/>

知ると分かる、すると変わる。



SDGs MODEL ADACHI